

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-154	16-072	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Moderate Alcohol Use and Insulin Action in Chronic Hepatitis C Infection. C 型肝炎ウイルス感染者における適度な飲酒とインスリンの関連		
執筆者		
Burman BE, Bacchetti P, Khalili M.		
掲載誌		
Dig Dis Sci. 2016 Aug;61(8):2417-25. doi: 10.1007/s10620-016-4119-0.		
キーワード		PMID
C 型肝炎、インスリン抵抗性、メタボリック、適度な飲酒		27007134
要 旨		
<p>目的： C 型肝炎はインスリン抵抗性、糖尿病を含む代謝異常と関連している。一方、適度な飲酒は、一般集団で代謝に良い効果があることが知られている。しかし、C 型肝炎に対しても効果があるかは知られていない。本研究では、C 型肝炎患者における、飲酒量の違いとインスリン抵抗性、インスリン分泌とメタボリックシンドロームとの関連を評価することを目的とした。</p> <p>方法： 95 人の非糖尿病の C 型肝炎感染患者に詳細な臨床検査を受けてもらった。インスリン抵抗性は、240 分インスリン抑制試験の間に、SSPG を介して直接測定した。インスリン分泌量とインスリン分泌指数は 75g 経口ブドウ糖負荷試験によって求めた。アルコール代謝酵素遺伝子の CYP2E1 は、遺伝子多型がアルコール代謝に与える影響を調べるために検査した。</p> <p>結果： このコホートでは、過去 12 か月非飲酒者が 61%、適度な飲酒（男性で 1 日に 4 杯もしくは、1 週間に 14 杯、女性で 1 日に 3 杯、もしくは、1 週間に 7 杯以上飲酒してない）は 22%、重度な飲酒者（適度な飲酒を超えたもの）は 17%であった。肥満と非白人はインスリン抵抗性の強い予測因子であった。非飲酒者に対して適度な飲酒者は標準 BMI の対象者で SSPG の低下と関連していた。飲酒は、インスリン分泌との関連はみられなかった。重度な飲酒と非白人は、メタボリックシンドロームと関連していた。</p> <p>結論： 適度な飲酒は C 型肝炎でインスリン感受性の改善に関与していた。しかし、標準体重の人に限定されていた。適度な飲酒によるインスリン抵抗性の改善と C 型肝炎でのメタボリックの改善は、今後の縦断研究を必要とする。</p>		